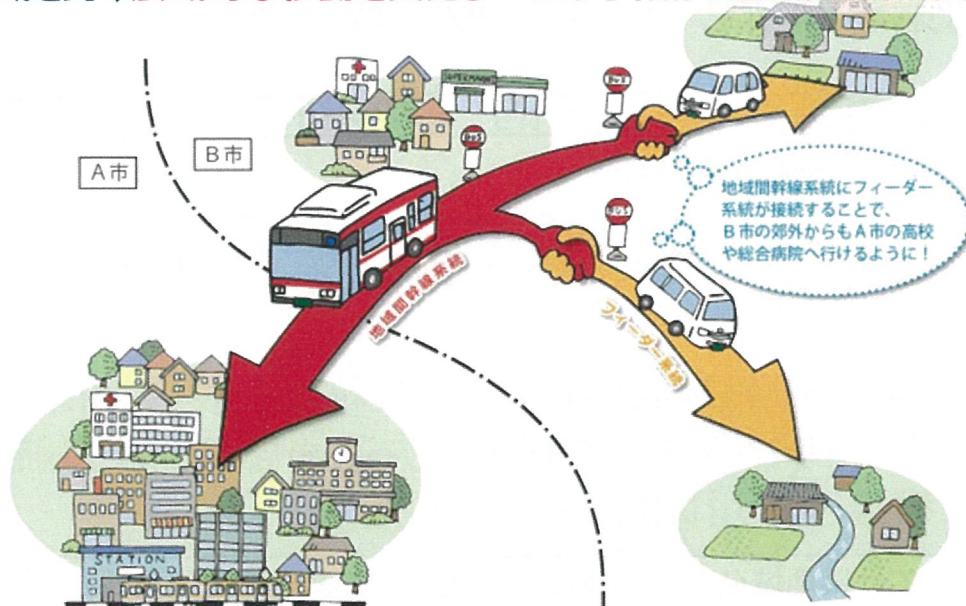


令和6年度 地域間幹線系統に関する事業評価

静岡県交通基盤部都市局地域交通課

地域間幹線系統とは

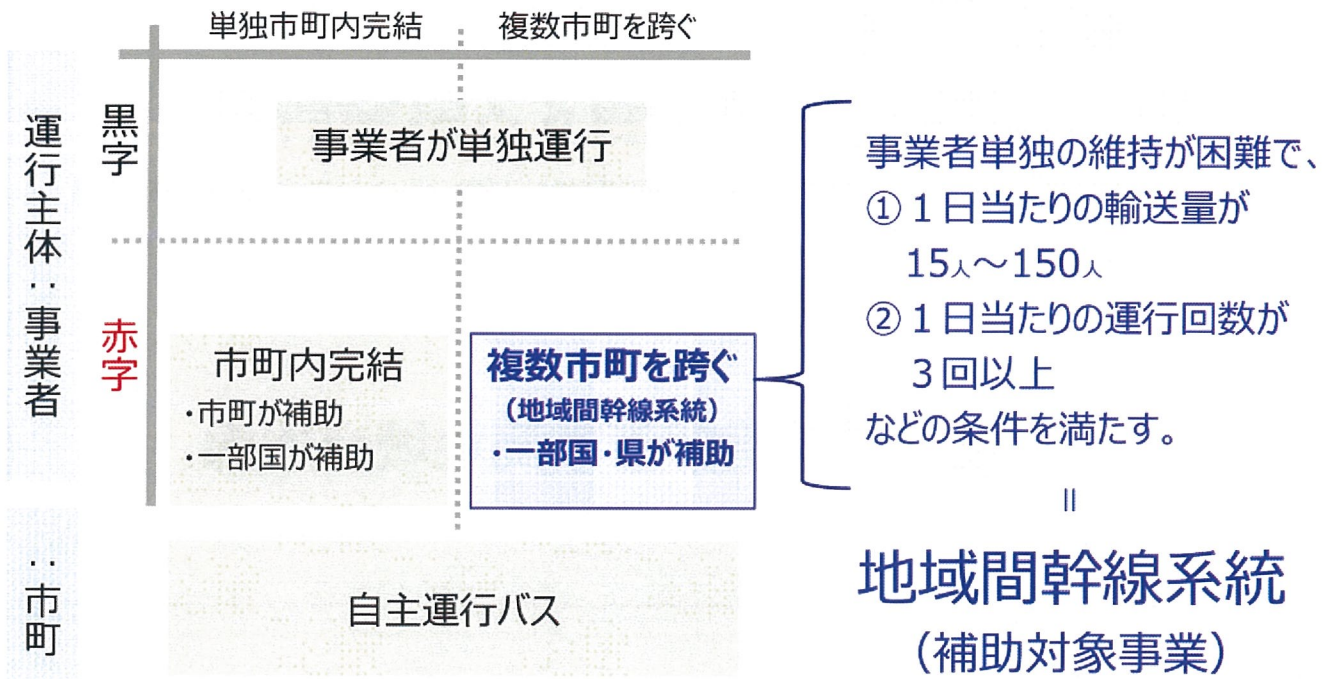
日常生活における通勤、通学、通院の流動実態等から、結びつきの強い市町の組み合わせを交通圏として設定。(出典：中部運輸局「中部の交通圏」)
圏内や圏域を跨ぐ広域的な移動を支える一つの手段が「地域間幹線系統」です。



出典：地域間幹線バスが地域で役立つようにするために(監修：中部運輸局)

地域間幹線系統に係る国・県の補助対象事業

収支から見る乗合バス事業の全体像と幹線系統の位置付け



2

地域間幹線系統の評価(なぜ評価を行うのか)

○補助対象事業が適切に行われているか確認する

○評価結果を分析し、事業改善に繋げる

→補助対象事業をより効果的、効率的に実施するため

(参考)事業評価実施の根拠

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱

第3条

5 協議会※は、補助対象事業ごとに補助対象事業について評価を行い、その結果について地方運輸局又は地方航空局長に報告しなければならない。

※本県においては県地域公共交通活性化協議会バス専門部会(旧静岡県生活交通確保対策協議会)を指す。

3

静岡県地域間幹線系統評価基準（新）

次の項目を点数化し、合計点をA・B・Cで評価

項目	評価する内容	評価
①運行回数	実績値（補助要件を満たしているか）	3回/日以上：10点 3回/日未満：0点
②輸送量	実績値（補助要件を満たしているか）	20人/日以上：30点 15人/日以上20人/日未満：5点 15人/日未満：0点
③収支率	実績値	50%以上：20点（満点）、25%未満：3点 25%～50%は3～6点を加算
④乗車人員	計画値に対する実績値	5%超：20点（満点）、0～5%増：15点、 0～5%減：6点、5%以上減：3点
⑤ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能拠点数	鉄道駅及びバスターミナルでの結節：1箇所2点 その他のバス停での結節：1箇所1点
⑥広域移動状況	市町を跨いで移動する人の割合	50%以上：10点（満点） 5%未満：0点（5%毎に2～3点加算）
合計		A評価：86点以上 B評価：66～85点 C評価：51～65点 D評価：50点未満

4

〈参考〉静岡県地域間幹線系統評価基準（旧）

次の項目を点数化し、合計点をA・B・Cで評価

項目	評価する内容	評価
①運行回数	計画値に対する実績値	計画数以上：3点 計画数未満：0点
②収支率	実績値	30%未満：0点（5%毎に3点加算） 55%以上：18点（満点）
③乗車人員	計画値に対する実績値	5%超：6点、△5%以上5%未満：3点 △5%超：0点
④ネットワーク構成	鉄道等への乗換可能拠点数	鉄道駅及びバスターミナルでの結節：1箇所2点 その他のバス停での結節：1箇所1点
⑤広域移動状況	市町を跨いで移動する人の割合	5%未満：0点（5%毎に5点加算） 20%以上：20点（満点）
⑥キロ当たり経費	国が示す標準単価との比較	単価以上：0点（△5%毎に5点加算） △15%超：12点
合計		A評価：52～79点 B評価：26～51点 C評価：0～25点



地域間幹線系統評価基準 主な変更点①

1 評価項目を「補助基準」「実施状況」「幹線性・広域性」に分類

項目	評価のポイント
補助基準	国・県の補助基準を満たしているか
実施状況	事業は効果的に実施されたか
幹線性・広域性	地域間幹線系統としての役割を果たしているか

2 評価項目に「輸送量」を追加(補助要件:15人/日)

結果	評価のポイント
15人/日～20人/日	今後利用者が減ると補助要件を満たさなくなるおそれがあるため、改善に向けた利用促進等の努力が必要
15人/日未満	今回から直ちに補助対象外となるわけではないが、今後の計画で補助を受けられなくなるおそれがあるため、見直しを含めた路線のあり方の検討が必要

6

地域間幹線系統評価基準 主な変更点②

3 評価指標を「A・B・C」の3段階から「A・B・C・D」の4段階に変更

指標	点数	評価のポイント
A	86点以上	地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B	66点～85点	地域間幹線系統として適した運行となっている
C	51点～65点	改善に向け努力を要する
D	50点以下	見直しを含めた路線のあり方の検討が必要

※C・D評価の系統については、今後国、県の補助要件を満たさなくなるおそれがある。

4 評価対象から「キロ当たり経費」を除外

物価高騰や運転士確保のための処遇改善など、路線維持のために経費が上がっていることから、評価対象から「キロ当たり経費」を除外

7

令和6年度の評価結果

※詳細は別添

	A評価	B評価	C評価	D評価	系統数
山梨交通			1		1
秋葉バスサービス	2	1		1	4
遠州鉄道	10	5		1	16
しずてつジャストライン	4	6		1	11
富士急モビリティ	4				4
富士急バス	2				2
富士急静岡バス	1	1	2		4
富士急シティバス		6			6
伊豆箱根バス	1	2			3
東海バス	7	1			8
合計	31	22	3	3	59

8

評価結果内訳

○事業者ごとの系統別の評価

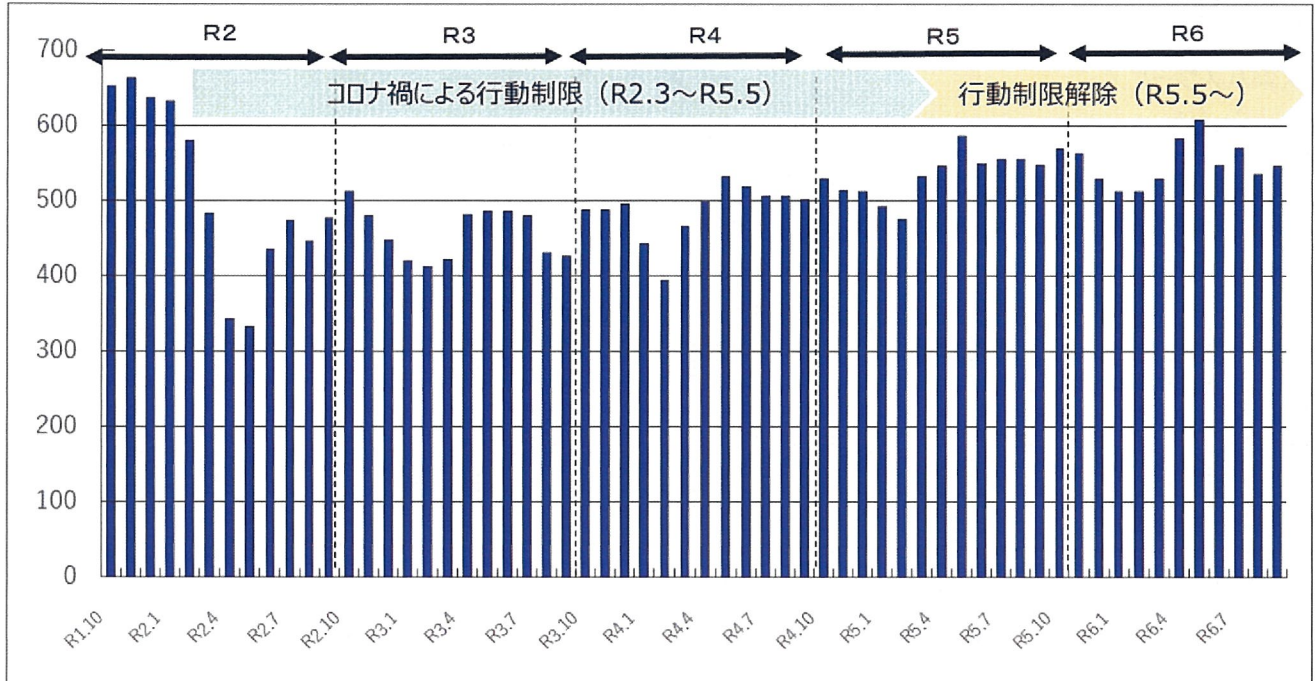
事業者名	系統名	R6	事業者名	系統名	R6	事業者名	系統名	R6
1 山梨交通	富士急駅～イオン、基山宮～藤原病院	C	22	三保草薙線	B	43	駿河平線	B
2	秋葉線	D	23	五十海大住線	B	44	須山線	B
3 秋葉バスサービス	秋葉中遠線	A	24	焼津岡部線	B	45	原線	B
4	秋葉中遠線	A	25	藤枝吉永線	A	46	桜堤線	B
5	秋葉中遠線	B	26	島田静波線	A	47	がんセンター線	B
6	浜北医大三方原聖隷線	B	27 しずてつジャストライン	島田静波線	B	48	がんセンター線	B
7	磐田市立病院福田線	A	28	藤枝相良線	B	49	沼津大岡三島線	A
8	中ノ町磐田線	B	29	菊川浜岡線	A	50 伊豆箱根バス	長岡伊豆三津シーパラダイス線	B
9	秋葉線	B	30	掛川大東浜岡線	A	51	沼津静浦長岡線	B
10	磐田天竜線	A	31	掛川大東浜岡線	B	52	石廊崎線	A
11	磐田天竜線	B	32	掛川大東浜岡線	D	53	天城峠線	A
12	掛塚さなる台線	A	33	御殿場線	A	54	戸田線	A
13 遠州鉄道	内野台線	A	34 富士急モビリティ	駿河小山線	A	55	西海岸線	A
14	内野台線	B	35	十里木線	A	56	バサラ峠線	A
15	磐田市立病院福田線	D	36	河口湖線	A	57	バサラ峠線	A
16	引佐線	A	37 富士急バス	河口湖線	A	58	下賀茂線	A
17	萩丘都田線	A	38	新富士線	A	59	柿田線	B
18	大塚ひとみヶ丘線	A	39	曾比奈線	C			
19	気賀三ヶ日線	A	40 富士急静岡バス	大湖線	C			
20	奥山線	A	41	大月線	A			
21	掛塚さなる台線	A	42	大月線	B			

※本年度の評価結果内訳は別添資料参照

〈参考〉県内の乗合バス利用者の推移

(R1.10～R6.9)

(単位:万人)



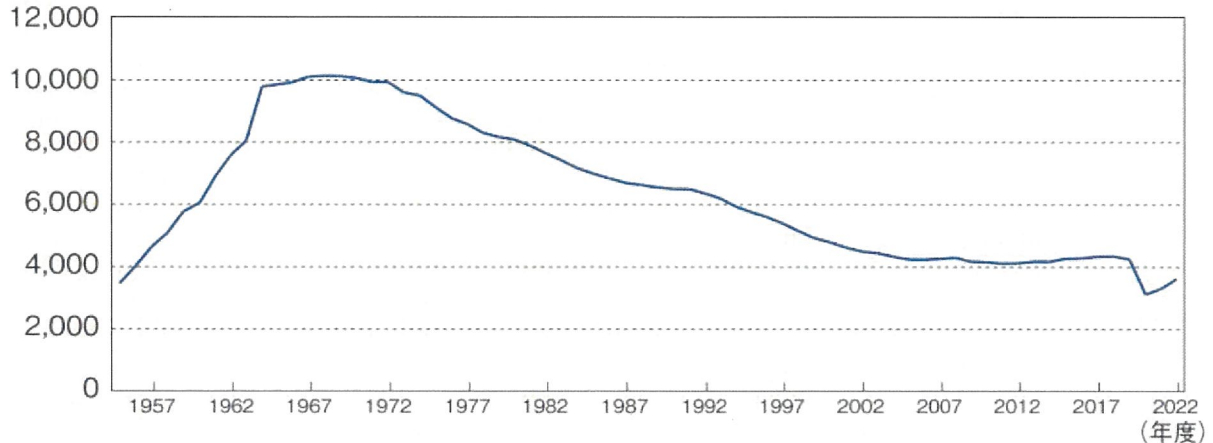
(静岡県地域交通課調査)

10

〈参考〉国内の一般路線バス輸送人員の推移

図表1-3-1-7 一般路線バス輸送人員の推移

輸送人員 (単位:百万人)



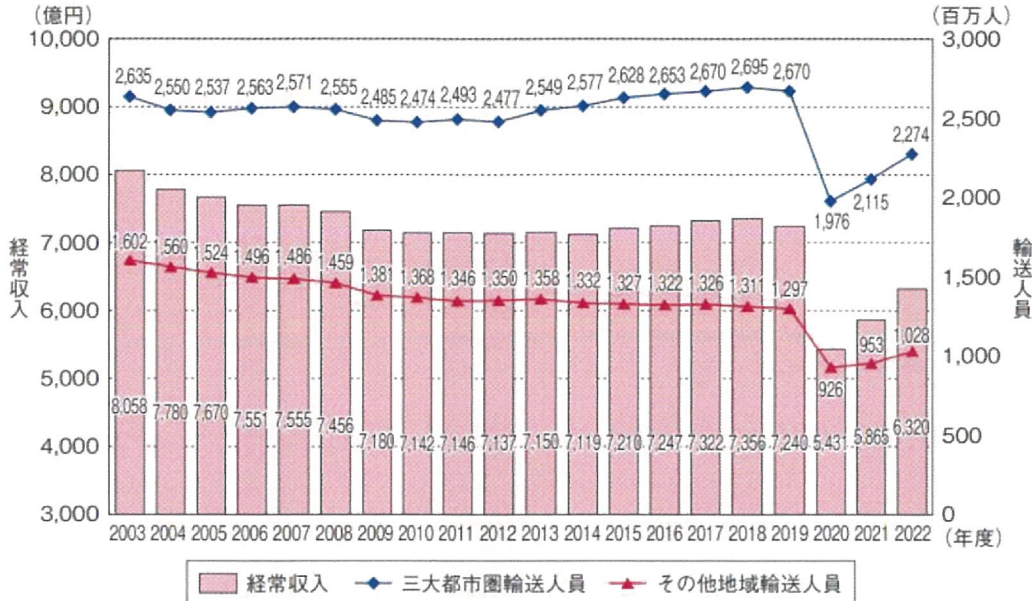
資料:「自動車輸送統計調査」から国土交通省総合政策局作成

(出典:国作成資料令和5(2023)年度交通の動向)

11

〈参考〉一般路線バスの輸送人員、経常収入の推移

図表1-3-1-8 都市部・地方部別の一般路線バスの輸送人員、経常収入の推移



注1：各数値データは、乗合バスの保有車両数が30両以上のバス事業者のデータを採用。
 注2：三大都市圏とは、埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、三重、岐阜、大阪、京都、兵庫である。
 資料：国土交通省物流・自動車局作成

(出典：国作成資料令和5(2023)年度交通の動向)

事業者、自治体の連携による利用促進の取組



実施日

令和6年12月7日(土)・8日(日)

対象路線

県内全域の約400路線 (路線バス、コミュニティバス含む)

対象者

県内の学校に通う小学生約17万3000人

※リーフレット配布部数

(同規模での小学生を対象としたバス無料デーは全国初)

掲載メディア

- ・NHK放送局、静岡第一テレビ、静岡朝日テレビ、静岡朝日テレビ (Web)、静岡新聞SBS (アットエス)、くふうロコしずおか (Web)
- ・SBSラジオ (IPPO)、FMHaro
- ・静岡新聞、中日新聞、読売新聞

効果検証

- ・無料対象路線での乗車人員調査、小学生や保護者を対象としたアンケートなどを基に実施効果を検証 (公表は2~3月を予定)



令和6年度地域間幹線系統の事業評価結果（概要）

1 事業評価の目的

事業評価は、静岡県地域公共交通活性化協議会バス専門部会が定めた静岡県地域公共交通計画に位置づけられた補助対象系統（地域間幹線系統）について、事業の実施状況の確認や目標の達成状況等の評価を行い、市町が開催する地域公共交通会議等における評価内容に対する議論・検討の活性化や広く県民に内容を公表することによる理解の促進など、補助対象事業が効果的、効率的に実施されることを目的として実施している。

なお、令和6年度評価では、より実態を反映した評価となるよう、国補助要件となっている「輸送量」を評価項目に加える等の見直しを行った（見直しのポイントは別紙のとおり）。

2 評価項目

評価の観点	評価項目	説明
補助基準	運行回数	実績運行回数が補助要件を満たしているかを評価
	輸送量	実績輸送量が補助要件を満たしているかを評価
実施状況	収支率	実績値を評価(収支率 50%以上満点)
	乗車人員	計画値に対する実績値を評価(+5%以上満点)
幹線性・広域性	ネットワーク構成	他の系統と乗換可能なアクセス拠点数及びバス停数を評価(10点満点)
	広域トリップ状況	バス利用者の市町を跨ぐ移動割合を評価(50%以上満点)
説明事項	(点数なし)	利用実態等を含めた当該系統の運行目的等
事業者の取組		路線維持のための増収策、路線維持のための費用削減策

【各項目に評価点を設定し、合計点に応じて以下のとおり評価】

評価	内容
A (86点以上)	地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B (66～85点)	地域間幹線系統として適した運行となっている
C (51～65点)	地域間幹線系統として改善に努力を要する
D (0～50点)	地域間幹線系統として見直しの検討を要する

3 事業評価結果の概要

全体評価：B（参考※：R3～4：B、R5：A）※R5以前の評価はR6と評価基準が異なるため参考

- ・評価対象系統全59系統中、A評価：31系統、B評価：22系統、C評価：3系統、D評価：3系統
- ・平均点数が83.1点であることから、全体評価を『B』とした。
- ・各系統の評価結果は別添「令和6年度地域間幹線系統総合評価一覧表」のとおり。

(別紙)

見直しのポイント

- ・評価項目を「補助基準」「実施状況」「幹線性・広域性」の3部門に整理した
- ・「補助基準」「実施状況」を各40点満点、「幹線性・広域性」を20点満点とし、系統の特性よりも補助要件を満たしているかや、補助系統の実施状況を重視した『実績指向型』に見直しを行った

区分	評価の考え方	見直し内容
①補助基準	国・県の補助金を満たしているか	・運行回数に加え、新たに輸送量を評価基準に追加
②実施状況	事業は効果的に実施されたか	・従前の収支率、乗車人員の評価を採用 ・収支率、乗車人員は実績に比例した配点とする ・キロ当たり経費は、コロナ後の物価高騰や運転士不足等の社会情勢の変化をふまえ、基準単価（ブロック単価）との比較による評価は行わない
③幹線性・広域性	地域間幹線系統としての役割を果たしているか	・従前のネットワーク構成、広域トリップ率を採用 ・ネットワーク構成は経路が変わらない限り、系統固有の加点 ・広域トリップ状況は実績に比例、5%に満たない場合は幹線系統としての役割が僅少であるため0点
④合計	-	・評価の合計点（満点）を79点から100点に変更 ・評価指標を「A・B・C」の3段階から「A・B・C・D」の4段階に変更 A：86点以上 （幹線系統として優れた役割を果たしている） B：66点～85点 （幹線系統として適した運行となっている） C：51点～65点未満 （改善に向け努力を要する） D：50点未満 （見直しを含めた路線のあり方の検討が必要）

令和6年度地域間幹線系統総合評価一覧表

事業者名	系統名	補助基準(40点)		実施状況(40点)		幹線性・広域性(20点)		点数	評価					事業者平均	全体評価		
		運行回数 (10点)	実績輸送量 (30点)	収支率 (15点)	乗車人員 (15点)	ネットワーク (10点)	広域トリップ (10点)		A	B	C	D	計				
									86~100	66~85	51~65	0~50					
山梨交通	1 富士宮駅・イオン・星山台・蒲原病院線	10	5	15	12	20	32	6	5	11	58			○		1	58.0
秋葉バスサービス	2 秋葉線(袋井駅前～遠州森町～気多)	10	0	10	3	3	6	10	5	15	31				○		71.0
	3 秋葉中遠線(袋井駅前～袋井市民病院～遠州森町)	10	30	40	15	20	35	10	5	15	90	○				4	
	4 秋葉中遠線(大東支所～横須賀車庫前～袋井駅南口)	10	30	40	15	20	35	6	8	14	89	○					
	5 秋葉中遠線(横須賀車庫前～新岡崎～袋井駅南口)	10	30	40	15	6	21	5	8	13	74		○				
	6 浜北医大三方原聖隷	10	30	40	12	3	15	10	8	18	73		○				
遠州鉄道	7 磐田市立病院福田線(磐田市立病院～磐田駅～豊浜郵便局)	10	30	40	15	20	35	7	5	12	87	○					16
	8 中ノ町磐田線(浜松駅～中ノ町～磐田営業所)	10	30	40	20	6	26	9	5	14	80		○				
	9 秋葉線(春野車庫～西鹿島駅～厚生会)	10	30	40	12	15	27	7	8	15	82		○				
	10 磐田天竜線(山東～新開～磐田駅)	10	30	40	20	20	40	8	10	18	98	○					
	11 磐田天竜線(ららぽーと経由)	10	30	40	15	3	18	8	8	16	74		○				
	12 掛塚さなる台線(浜松駅～掛塚～豊浜郵便局)	10	30	40	20	20	40	9	8	17	97	○					
	13 内野台線(内野台車庫)	10	30	40	20	15	35	10	8	18	93	○					
	14 内野台線(サンストリート浜北)	10	30	40	15	6	21	10	8	18	79		○				
	15 磐田市立病院福田線(磐田駅南口～豊浜郵便局)	10	5	15	15	3	18	5	10	15	48				○		
	16 引佐線	10	30	40	20	20	40	10	8	18	98	○					
	17 萩丘都田線	10	30	40	20	15	35	10	5	15	90	○					
	18 大塚ひとみヶ丘線	10	30	40	20	20	40	10	0	10	90	○					
	19 気賀三ヶ日線	10	30	40	20	20	40	10	5	15	95	○					
	20 奥山線	10	30	40	20	20	40	10	8	18	98	○					
	21 掛塚さなる台線(浜松駅～芳川～掛塚)	10	30	40	20	20	40	8	5	13	93	○					
しずてつジャストライン	22 三保草薙線	10	30	40	15	15	30	10	2	12	82		○			11	79.2
	23 五十海大住線	10	30	40	12	3	15	10	8	18	73		○				
	24 焼津岡部線	10	30	40	15	3	18	6	10	16	74		○				
	25 藤枝吉永線	10	30	40	20	20	40	10	8	18	98	○					
	26 島田静波線(島田駅前～静波海岸入口)	10	30	40	12	20	32	10	10	20	92	○					
	27 島田静波線(島田市立総合医療センター～島田駅前～静波海岸入口)	10	30	40	12	3	15	10	10	20	75		○				
	28 藤枝相良線	10	30	40	15	6	21	10	10	20	81		○				
	29 菊川浜岡線	10	30	40	20	20	40	5	8	13	93	○					
	30 掛川大東浜岡線(掛川駅前～浜岡営業所)	10	30	40	12	20	32	9	10	19	91	○					
	31 掛川大東浜岡線(中東遠総合医療センター～浜岡営業所)	10	30	40	20	3	23	10	10	20	83		○				
	32 掛川大東浜岡線(掛川駅前～大東支所)	10	0	10	3	3	6	4	10	14	30				○		
	富士急モビリティ	33 御殿場線	10	30	40	20	20	40	10	8	18	98	○				
34 駿河小山線		10	30	40	20	6	26	10	10	20	86	○					
35 十里木線		10	30	40	20	15	35	8	10	18	93	○					
36 河口湖線		10	30	40	20	20	40	10	10	20	100	○					
富士急バス	37 河口湖線	10	30	40	20	20	40	10	10	20	100	○				2	100
	38 新富士線	10	30	40	20	20	40	10	10	20	100	○					
富士急静岡バス	39 曾比奈線	10	5	15	20	3	23	8	10	18	56			○		4	68.7
	40 大淵線	10	5	15	20	3	23	10	10	20	58			○			
	41 大月線(吉原中央駅～富士宮駅)	10	30	40	20	6	26	10	10	20	86	○					
	42 大月線(新富士駅～静岡県富士山世界遺産センター)	10	5	15	20	20	40	10	10	20	75		○				
富士急シティバス	43 駿河平線	10	30	40	20	3	23	8	8	16	79		○			6	78.5
	44 須山線(三島駅～須山)	10	30	40	20	3	23	10	8	18	81		○				
	45 原線	10	30	40	20	3	23	10	2	12	75		○				
	46 桜堤線	10	30	40	20	6	26	7	10	17	83		○				
	47 がんセンター線(沼津駅～がんセンター)	10	30	40	20	3	23	6	5	11	74		○				
48 がんセンター線(三島駅～がんセンター)	10	30	40	20	3	23	6	10	16	79		○					
伊豆箱根バス	49 沼津大岡三島線	10	30	40	20	6	26	10	10	20	86	○				3	78.6
	50 長岡伊豆三津シーパラダイス線	10	30	40	20	3	23	7	5	12	75		○				
	51 沼津静浦長岡線	10	30	40	20	3	23	7	5	12	75		○				
東海バス	52 石廊崎線	10	30	40	20	20	40	7	8	15	95	○				8	94.1
	53 天城峠線	10	30	40	20	20	40	10	8	18	98	○					
	54 戸田線	10	30	40	20	20	40	7	8	15	95	○					
	55 西海岸線	10	30	40	20	15	35	10	10	20	95	○					
	56 バサラ峠線(下田駅～堂ヶ島)	10	30	40	20	20	40	10	10	20	100	○					
	57 バサラ峠線(下田駅～宇久須)	10	30	40	20	20	40	10	10	20	100	○					
	58 下賀茂線	10	30	40	15	15	30	7	10	17	87	○					
59 柿田線	10	30	40	20	3	23	10	10	20	83		○					
計											83.1	31	22	3	3	59	

[全体評価の理由]
・平均評価点数が83.1点である。

B

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名	系統名	起点	主な経由地	終点
株式会社東海バス	石廊崎線	下田駅	休暇村	石廊崎オーシャンパーク
系統キロ程	関係市町			
22.4 km	下田市	南伊豆町		

2 評価結果

項目	評価のポイント	実績	評価 点数	(参考) 前年度実績	
補助基準 (40)	国庫補助基準を満たしたか	—	—	—	
運行回数 (10)	運行回数3回/日以上を確保したか	15.0 回/日	10	15.0 回/日	
輸送量 (30)	実績輸送量15人/日以上を達成したか	46.5 人/日	30	48.0 人/日	
実施状況 (40)	効果的に実施されたか	—	—	—	
収支率 (20)	収入を確保できているか	51.6 %	20	48.5 %	
乗車人員 (20)	乗車人員の実績は計画を上 回ったか	実績	90,036 人	20	93,752 人
		計画	66,018 人		69,664 人
幹線性・広域性 (20)	幹線としての役割を果たしたか	—	—	—	
ネットワーク構成 (10)	他の系統と乗換可能なアクセ ス拠点 (バス停数) はあるか (詳細別記)	拠点	1 箇所	7	1 箇所
		乗継バス停	5 箇所		5 箇所
広域トリップ状況 (10)	市町 (H13.3.31現在の市町) 跨ぎの移 動はされているか	49.2 %	8	59.1 %	

補助基準	40 /40
実施状況	40 /40
幹線性・広域性	15 /20
合計	95 /100

評価指標

A

A：幹線として優れた役割を果たしている

B：幹線として適した運行となっている

C：改善に努力を要する

D：見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	伊豆急行線の下田駅から南伊豆の休暇村を経由し石廊崎港までを結ぶ路線であり、南伊豆町の南崎地区から下田市内への通院、通学や下田駅から南伊豆方面への観光利用、また、南伊豆町内の小学生、中学生の通学の足としての運行が目的である。 下田市と南伊豆町の境となる「銭瓶峠」を越える利用は、全体の半数程度であり、そのうち、通勤、通学、通院等を目的とした地元客が約6割、残り4割は、観光来遊客となっている。また、「銭瓶峠」を越えない短距離利用は、南伊豆町内の小中学生の通学利用が大半を占めている。
ネットワーク構成の詳細	(拠点) 伊豆急行線伊豆急下田駅
	(乗継ぎバス停) 広岡、下田メディカルセンター、吉佐美、日野、石廊崎港口
公共施設・拠点施設とのアクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 下田メディカルセンター、伊豆下田診療所、みなとクリニック、下田とうきゅう、マックスバリュ下田銀座店、フードストアあおき広岡店、伊豆急行線伊豆急下田駅、下田市役所

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 3. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようになっている。 4. 高齢者定期券（伊東地区：ゆうゆうバス、中伊豆地区：いきいきバス、沼津地区：楽々バス）を引続き発売し、高齢者の利用促進及び高齢者福祉を図っている。 5. バスロケーションシステムを活用し、バスの接近情報をスマートフォンで表示できるサービスにより、利便性の向上を図っている。 6. 下田駅、下田メディカルセンター、石廊崎オーシャンパーク等において、デジタルサイネージを設置し、時刻案内等を行っている。 7. ホームページを多言語対応とすることにより、インバウンド客の利便性向上を図っている。 8. 乗車券販売窓口（一部除く）において、クレジットカードおよびQRコード決済サービスの取り扱いを行うことにより、利便性向上を図っている。 9. 小田急の進める「MaaS」に参画し、デジタルフリーパスの取り扱い等により利便性の向上を図っている。 10. 交通系ICカードの導入により、利便性の向上を図っている。 12. 引き続き、バス停デザインの統一化に取り組み、バス停コードを付与すること等により、「わかりやすいバス」を推進する。 13. 2023年12月に運賃改定を実施。
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1. エコドライブ(省燃費運転)を継続して取り組み経費抑制に努めている。 2. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。

地域間幹線系統 事業評価シート

1 系統の概要

事業者名	系統名	起点	主な経由地	終点
株式会社東海バス	下賀茂線	下田駅	—	下賀茂
系統キロ程	関係市町			
11.7 km	下田市	南伊豆町		

2 評価結果

項目	評価のポイント	実績	評価 点数	(参考) 前年度実績	
補助基準 (40)	国庫補助基準を満たしたか	—	—	—	
運行回数 (10)	運行回数3回/日以上を確保したか	9.8 回/日	10	回/日	
輸送量 (30)	実績輸送量15人/日以上を達成したか	22.7 人/日	30	人/日	
実施状況 (40)	効果的に実施されたか	—	—	—	
収支率 (20)	収入を確保できているか	43.6 %	15	%	
乗車人員 (20)	乗車人員の実績は計画を上 回ったか	実績	32,059 人	15	人
		計画	31,511 人		人
幹線性・広域性 (20)	幹線としての役割を果たしたか	—	—	—	
ネットワーク構成 (10)	他の系統と乗換可能なアクセ ス拠点 (バス停数) はあるか (詳細別記)	拠点	1 箇所	7	箇所
		乗継バス停	5 箇所		箇所
広域トリップ状況 (10)	市町 (H13.3.31現在の市町) 跨ぎの移 動はされているか	53.7 %	10	%	

補助基準	40 /40
実施状況	30 /40
幹線性・広域性	17 /20
合計	87 /100

評価指標

A

A：幹線として優れた役割を果たしている

B：幹線として適した運行となっている

C：改善に努力を要する

D：見直しの検討を要する

3 説明事項

項目	内容
主な運行目的	当該路線は、伊豆急行線の伊豆急下田駅から下田市と南伊豆町の境である銭瓶峠をとおり、途中の日野までは地域間幹線系統である石廊崎線と同一経路ですが、そこから南伊豆町の中心で役場のある下賀茂までを結ぶ系統です。日頃は、通学、通院、買い物等の利用が主となっておりますが、下賀茂温泉への観光利用もあり、特に、2月から3月にかけてのみなみのさくらまつりの際は、観光客が増加する路線です。鉄道のない南伊豆町から下田駅までを結ぶ系統であり、住民にとっての移動手段として、重要な役割を担っており、欠かすことの出来ない路線となっております。
ネットワーク構成の詳細	(拠点) 伊豆急行線伊豆急下田駅
	(乗継ぎバス停) 広岡、下田メディカルセンター、吉佐美、日野、下賀茂
公共施設・拠点施設とのアクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 朝日小学校、南伊豆東中学校、南伊豆東小学校、下田高校南伊豆分校、南伊豆小学校、下田メディカルセンター、伊豆下田診療所、ふれあい南伊豆ホスピタル、飯島医院、はらクリニック、下田とうきゅう、フードストアあおき広岡店、マックスバリュ下賀茂店、下田市役所、南伊豆町役場、下田税務署、静岡地方裁判所下田支部、下田市立図書館、下田市民文化会館、伊豆急下田駅

4 事業者の取組

項目	内容
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の利用実態に即した、平日型通学定期券の発売を引続き実施している。 2. 時刻表を市役所等で配布している他、新聞折込等により各戸へ配布している。 3. 時刻表検索サイトへの掲出により、鉄道との乗り継ぎ時刻が検索できるようになっている。 4. 高齢者定期券（伊東地区：ゆうゆうバス、中伊豆地区：いきいきバス、沼津地区：楽々バス）を引続き発売し、高齢者の利用促進及び高齢者福祉を図っている。 5. バスロケーションシステムを活用し、バスの接近情報をスマートフォンで表示できるサービスにより、利便性の向上を図っている。 6. 下田駅において、デジタルサイネージを設置し、時刻案内等を行っている。 7. ホームページを多言語対応とすることにより、インバウンド客の利便性向上を図っている。 8. 乗車券販売窓口（一部除く）において、クレジットカードおよびQRコード決済サービスの取り扱いを行うことにより、利便性向上を図っている。 9. 小田急の進める「MaaS」に参画し、デジタルフリーパスの取り扱い等により利便性の向上を図っている。 10. 交通系ICカードの導入により、利便性の向上を図っている。 12. 引き続き、バス停デザインの統一化に取り組み、バス停コードを付与すること等により、「わかりやすいバス」を推進する。 13. 2023年12月に運賃改定を実施。
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1. エコドライブ(省燃費運転)を継続して取り組み経費抑制に努めている。 2. 乗務員の運転技術の向上に努めることにより、バス車両修繕費の抑制を図っている。

地域間幹線系統に対する市町取組方針報告書

市町名		南伊豆町
対象系統		
評価指標	A	石廊崎線、下賀茂線
	B	
	C	
	D	
市町の取組		
<ul style="list-style-type: none"> 小学生及び中学生の通学補助を実施し、バス利用の促進を図った。 高校生の通学補助を実施し、バス利用促進を図った。 高齢者の通院時のバス利用料金補助を実施した。 観光チラシ等に交通手段としてバス情報を掲載した。 観光施設にバス情報を掲示した。 		
今後の方針（市町の意向等）		
評価指標	AまたはB	引き続き国、県の補助を受けるとともに、上記取組を継続し利用促進を図る。
	CまたはD	

(記載要領)

- 「市町の取組」は、評価期間に実施した利用促進策等の取組を記載してください。
- 「今後の方針（市町の意向等）」は、当該系統をどのように維持していくか、簡潔に記載してください。なお、輸送量が20人/日未満（特に評価指標がCまたはDの系統）については、国及び県の補助要件（輸送量15人/日等）を満たさなくなり、今後補助を受けられなくなるおそれがあるため、より具体的な取組や市町の意向を記載してください。